

申請者	学科名	造形デザイン学科	職名	講師	氏名	山下 万吉
調査研究課題	非漢字圏の日本語学習者に向けた漢字アニメーション教材の制作					
調査研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	山下 万吉	岡山県立大学デザイン学部・講師	映像デザイン	進行管理・制作	
	分担者	伊藤 秀明 石井 容子 前田 純子	国際交流基金 関西国際センター・日本語教育専門員 (同上) (同上)	日本語教育 (同上) (同上)	アンケートの協力・制作物に対する共同監修 (同上) (同上)	
調査研究実績の概要	<p>本研究は、主に非漢字圏の日本語学習者を対象として、【漢字および漢字学習への興味づけを促す漢字アニメーション制作と、映像の効果的なアプローチについて考察する】ことを目的とする。制作物は漢字を覚えるための初級者用漢字学習教材ではなく、「漢字学習は楽しい→自律的な漢字学習の工夫→日本語の習得に繋がる」という漢字学習サイクルの入り口であり、主体的な学びに繋がるような映像を目指した。</p> <p>なお、本研究は平成26年度に関西国際センターから委託された漢字アニメーションの試作の発展的なものとして取り組むものである。平成27年度は、平成26年度に実施した共同研究をベースに、調査と追加制作を中心に、以下の項目について研究を進めた。</p> <p>① 漢字学習教材の現状調査 ② 漢字アニメーションの制作 ③ 日本語教育研究者へのインタビュー調査 ④ 研究の発表</p> <p>① 漢字学習教材の現状調査</p> <p>近年、日本語学習者向けの漢字教材は書籍やデジタル教材など、様々な目的や学習者の環境に応じて多様化している。そこで、実際にどのような教材があるのか、日本から出版・リリースされている教材や、教材に関する研究について現状を調査した。</p>					

<p>調査研究実績の概要</p>	<p>漢字学習では、体系的に学習出来る教材が求められており、成り立ち、部首などの提示、イラスト化など、漢字に関わる要素を覚えやすくする工夫がなされているものが多いことが分かった。中には、漢字を覚えるイラストに特化した教材もあった。</p> <p>また、アニメーションを用いた既存の教材もあるが、そのほとんどが「書き順の説明」「字源の説明（象形文字から漢字への変化）」ばかりである。理由として、日本語教育の現場において漢字学習の教材は「分かりやすく理解させる、記憶させる」ことが基本的なポイントだと考えられているためである。</p> <p>② 漢字アニメーションの制作</p> <p>デザイン学研究科造形デザイン学専攻・M1の学生2名とともに、新たに6本の映像を制作した。日本語学習者が抱く「漢字の形は複雑、体系化して学べない」といった漢字学習の難しさを考慮した前年度からの改良点、工夫点、新たな試みを以下に挙げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形は似ているが意味が変わる漢字のアニメーション／「老、考」「狼、娘」「矢、失」「力、刀」という形は似ているが意味が違う2つの漢字を1組として扱い、漢字の意味の関連性や繋がりを持たせながら、1本の映像の中である程度起承転結がついたストーリー構成で見せる。 ・共通する漢字を用いた熟語及び偏と旁の連鎖アニメーション／しりとり的に漢字のみならず、漢字が持つイメージや意味も繋がっていき、最終的に「終」「閉」「死」など、終わりを意味する漢字で終わるアニメーション。 <p>③ 日本語教育研究者へのインタビュー調査</p> <p>2016年2月、日本語教育方法の研究者であり、様々な漢字教育の第一人者・加納千恵子教授（筑波大学 大学院人文社会科学部研究科）にインタビュー調査を行った。その際、浮かび上がった課題点および検討事項は以下である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習中級者を対象として、漢字を知っているからこそ分かる、楽しめるコンテンツとして見せてはどうか。ここまで学習したから、このアニメーションの内容が分かるということが達成感や学習意欲の向上に繋がる。 ・より踏み込んだ検証方法の検討。 <p>初級と中級学習者と比較漢して、具体的に漢字アニメーションのどの部分で面白さや楽しさを感じているか。また、それが漢字への興味や学習意欲にどのように結びついているか。</p> <p>④ 研究の発表</p> <p>2016年3月18日、日本語教育方法研究会第46回研究会において、「漢字を楽しむアニメーション動画制作の試み」として、ポスター発表を行った。</p> <p><今後の方針></p> <p>今後は、制作した漢字アニメーションを視聴した際の初級と中級学習者間での反応の違いなど、アニメーションの印象評価およびアニメーションの内容に踏み込んだ検証が必要であると考え。また、学習者の習得レベルだけでなく、それぞれの文化的背景や日本文化への理解度によって、漢字アニメーションの理解や受け取る情報も大きく異なるということを考慮して、制作を進める必要があると考え。</p>
<p>成果資料目録</p>	<p>日本語教育方法研究会誌 Vol. 22 No. 3 2016. 3. 19, P30-31</p>